

令和5年度 岡谷市 予算編成の大要

令和5年2月

岡 谷 市

令和5年度の岡谷市当初予算案及び関係議案を議会に提出し、ご審議をいただくにあたり、予算編成の方針及び大要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いするものであります。

令和5年度は、「**第5次岡谷市総合計画前期基本計画**」の最終年度となることから、前期5年間の総仕上げとして、基本目標の達成に向けた取組を着実に進めるとともに、後期基本計画の5年間を見据えた効果的な取組に積極的に投資することで、将来都市像であります「**人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現に向けて、加速度を上げて前進していかなくてはなりません。

新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）に対しては、ワクチン接種の促進や徹底した感染防止対策を講じているものの、先行きが不透明な状況が続いていることに加え、ウクライナ情勢の長期化等に伴う原油価格・物価高騰や不安定な為替状況が続く中、引き続き、市民の日常生活を守るとともに、企業活動を支える取組を切れ目なく講じていかなくてはなりません。

また、感染症の影響が長期化する中で、地方移住に対する関心の高まりや新たな人の流れなど、人々の意識・行動に大きな変化が生じていることから、本市の**特長・個性を最大限に活かしながら、仕事があって、暮らしやすく、生活に彩りと潤い、そして楽しみがあふれるまちをつくり上げる**ことで、多くの人を惹きつけ、呼び込んでいく必要があります。

本市の人口動態では、令和4年は52年ぶりに転入超過となったものの、人口減少が続く状況にある中、特に20代及び30代の女性の転出超過が顕著であることから、女性活躍の推進のほか、出会いの場の創出、結婚・妊娠・出産・子育て・教育までの切れ目のない包括的な支援の充実に加え、男女がともに子育てと仕事を両立することができる地域づくりや、魅力的な教育環境づくりに積極的に取り組み、多くの女性や若者に選ばれるまちづくりを展開してまいります。

さらに、行政分野においても大きな変革が生じております。行政の果たすべき仕事、役割が増大する中、人でなければできない業務に必要な人材を配置できるよう、これまでの業務内容や実施方法を一から検証し、最新のITツールを活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、時代の変化に的確かつスピード感をもって対応していかなくてはなりません。

このほか、近年異常気象を起因とした自然災害が全国各所で頻発しており、地球温暖化による「気候危機」が安全で安心な生活を脅かしていることから、自然災害への備えを強化することとあわせ、二酸化炭素排出量の削減など地球温暖化対策を官民一体となって取り組む必要があります。

こうしたことを踏まえ、令和5年度は「**未来を見据えた躍動の年**」と位置づけ、ウィズコロナ、ポストコロナの時代に的確に対応しながら、誰もが安心して夢と希望をもって暮らすことができるまち、いつまでも住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちづくりを推進してまいります。

そして、岡谷に住み、働き、学び、訪れるすべての人々、また、これから生まれてくる子どもたちが豊かさと幸せを感じられる満足度の高い岡谷市をつくり上げるため、各種の施策、事業に全力を傾注して取り組んでまいります。

令和5年度のわが国の経済情勢は、内閣府が公表した「**令和5年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度**」によりますと、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いている一方、わが国経済を取り巻く環境には厳しさが増しているとしております。

政府は、今後の経済財政運営に当たっては景気の下振れリスクに先手を打ち、わが国経済を民需主導の持続的な成長経路に乗せていくため、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」を迅速かつ着実に実行し、万全の経済財政運営を行うとしております。

また、今後とも大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を一体的に進める経済財政運営の枠組みを堅持し、民需主導の自律的な成長とデフレからの脱却に向け、経済状況等を注視し躊躇なく機動的な経済運営を行っていくとしております。

このほか、「**経済財政運営と改革の基本方針2022**」に基づき、危機に対する必要な財政支出は躊躇なく行い万全を期すとともに、「**経済あつての財政**」の考え方のもと経済をしっかりと立て直し、財政健全化に向けて取り組むとしております。

このような見通しに基づく「**令和5年度予算編成の基本方針**」では、足元の物価高を克服しつつ、経済再生の実現に向け人への投資、科学技術・イノベーション、スタートアップ、GX（グリーントランスフォーメーション）、DX（デジ

タルトランスフォーメーション)といった成長分野への大胆な投資、少子化対策・子ども政策の充実等を含む包摂社会の実現等による新しい資本主義の加速や、外交・安全保障環境の変化への対応、防災・減災、国土強靱化等の国民の安全・安心の確保を始めとした重要な政策課題について必要な予算措置を講ずるなどメリハリの効いた予算編成を行い、その政策効果を国民や地方の隅々まで速やかに届け、わが国経済を持続可能で一段高い成長経路に乗せていくことをめざすとしております。

こうした方針に基づく国の令和5年度当初予算案は、一般会計の歳出総額を**114兆3,812億円**としており過去最大の予算規模となっております。

また、総務省が公表した「令和5年度地方財政対策」によりますと、地方団体が行政サービスを安定的に提供しつつ、地域のデジタル化・脱炭素化の取組等の推進、自治体の施設の光熱費高騰への対応などの重要課題に取り組むことができるよう、地方交付税については前年度を3,073億円上回る、18兆3,611億円を確保するほか、地方の一般財源総額については前年度を1,500億円上回る、62兆1,635億円を確保することとしております。

こうした考え方に基づく地方財政計画の規模は、前年度比1.6%増の**92兆400億円**程度、公債費などを除く地方一般歳出につきましては前年度比0.8%増の**76兆4,800億円**程度が見込まれているところであります。

岡谷市におきましては、地域経済の緩やかな回復傾向がみられることから、給与所得の増などにより、個人市民税、法人市民税をはじめ、市税全体で増収を見込んでおります。

しかしながら、令和5年度以降の一般会計の財政推計では、歳入全般で減が見込まれ、歳出においては扶助費や公共施設等の維持管理経費の増のほか、公債費、定年退職年齢の引き上げに伴う人件費の増などを見込んでおります。

このようなことから、引き続き、産業振興や子育て支援、市民の安全・安心を確保するための施策と、健全財政の堅持に向けた取組との調和を図りながら、後年度の財政需要に配慮した安定的な行財政運営に努めなければなりません。

こうしたことから、「岡谷市行財政改革プログラム」に基づき、公共施設等の計画的な修繕や長寿命化、類似施設の統合などによる最適化に向けた取組のほか、歳入確保と歳出削減、人材育成と意識改革など、たゆまぬ行財政改革に取り組み、人口規模や財政規模に見合った、時代にふさわしいまちづくりを進めてま

いります。

この度提出いたします令和5年度当初予算案は、「第5次岡谷市総合計画」に掲げる将来都市像「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現に向けて、

- ・ともに支えあい、健やかに暮らせるまち
- ・未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち
- ・人が集い、にぎわいと活力あふれるまち
- ・安全・安心で、自然環境と共生するまち
- ・快適な生活を支え、住み続けたいまち
- ・みんなでつくる、確かな未来を拓くまち

の6つのまちづくりの基本目標を基調とする中で、限られた財源を喫緊の政策課題に重点配分し、より効果的な施策展開を図るため、

- ・活力と彩りの創造
- ・未来に輝くひとづくり
- ・穏やかで美しい日常の実現

の3つを重点施策に掲げ、必要な施策・事業に財源を集中した「未来へ躍動賑わい創出予算」として編成しております。

あわせて、国が策定しました「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」を踏まえ、市としては、より効果的な事業展開を図るため、昨年度に引き続き、令和4年度補正予算と令和5年度当初予算を一体とした「14か月予算」として編成をしております。

次に、予算編成の「重点施策」の考え方について説明申し上げます。

はじめに「活力と彩りの創造」につきましては、令和2年2月以降、感染症の拡大によって厳しい影響を受けた市民生活の下支え、市内事業者の事業継続と雇用維持に対する支援など、これまで各種の対策を講じることで感染症の影響を最小限に食い止め、市民生活や地域経済を守ってまいりました。

感染症につきましては、政府から5類感染症とする方針が示されておりますが、今後の動向はいまだ不透明な状況が続いていることから、引き続き、企業活動の継続、消費需要の喚起などにより地域経済の回復を確かなものとするとともに、市内事業者の持続的な成長を支援してまいります。

また、地方移住に対する関心の高まりや人の流れの変化などに対応するため、

本市の特長・個性を最大限に活かしながら、多くの人に選ばれるまちづくりを推進いたします。

次に「**未来に輝くひとづくり**」につきましては、出生数が年々減少する中、安心して子どもを生み育てられる環境を整えるなど子育て支援施策の充実を図ってまいります。

また、幼保小中の連携強化や小中一貫教育の推進など子どもたちの豊かな学びの推進に取り組むとともに、変化の激しい社会環境の中で、子どもたちの「未来を生き抜く力」を醸成するなど岡谷市の将来を担うひとづくりに取り組むことといたします。

次に「**穏やかで美しい日常の実現**」につきましては、感染症やウクライナ情勢等に起因する原油価格・物価高騰、不安定な為替状況の影響を受ける市民生活の下支えのための各種支援策を展開してまいります。

また、激甚化・頻発化する自然災害に対する防災・減災への備えを強化し、安全・安心で強靱な地域づくりに取り組むとともに、二酸化炭素排出量の削減など地球温暖化対策を官民一体となって進め、ゼロカーボンシティ宣言市として2050年二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことといたします。

このほか、福祉、健康づくり分野など、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

さらに、重点施策の中でも特に注力して取り組まなければならない喫緊の政策課題であります「**移住・定住の促進**」及び「**ゼロカーボンの推進**」につきましては、財源を重点的に配分するとともに、全庁一丸となって着実に推進してまいります。

これら重点施策に基づく令和5年度の一般会計当初予算額は、**総額218億円**、前年度比では**16億1,000万円、8.0%の増**としております。

また、一般会計・特別会計の合計では、**総額275億6,080万円**、前年度比では**15億6,890万円、6.0%の増**としております。

一般会計歳入の主な事項ではありますが、市税につきましては令和4年度決算見込額を基に**66億9,000万円**、前年度比では**1億7,200万円、2.6%の増**を見込んでおります。

地方交付税につきましては、令和4年度決算見込額や地方財政計画などを基に**48億7,400万円**、前年度比では**3億3,200万円**、**7.3%の増**を見込んでおります。

また、一般会計歳出のうち、事業費の増減が大きいものとしたしましては、**総務費**では、市役所庁舎の照明設備及び自動火災報知設備の更新事業費の皆増などにより、前年度比**1億7,080万4千円**、**8.8%増の21億2,172万8千円**、**民生費**では、児童手当などが減となる一方、障がい者自立支援給付費、地域医療介護総合確保基金事業補助金の増などにより、前年度比**1億6,953万7千円**、**2.4%増の73億3,433万5千円**、**土木費**では、諏訪湖周サイクリングロード整備事業費及び仮称・諏訪湖スマートインターチェンジ整備事業費が前倒し実施に伴い減となった一方、道水路維持補修事業費、道水路等新設改良事業費、橋梁維持補修事業費の増などにより、前年度比**5,869万2千円**、**3.0%増の20億1,786万4千円**、**公債費**では、借換債元金償還金の増により、前年度比**13億7,718万9千円**、**61.4%増の36億1,969万4千円**としております。

災害復旧費につきましては、令和3年8月の大雨災害に伴う、林道施設災害復旧事業の進捗により**皆減**としております。

次に、企業会計につきましては、水道事業・下水道事業・病院事業の3つの企業会計の収益的支出及び資本的支出の合計は**134億55万円**で、前年度比**4億1,922万円**、**3.2%の増**としております。

それでは、基調に沿って、令和5年度当初予算案の概要を順次説明してまいります。

はじめに、基本目標『ともに支えあい、健やかに暮らせるまち』について説明申し上げます。

まず、**結婚に対する支援**といたしまして、新たな男女の出会いの場を創出するため**恋つむぐ岡谷 出会いの場 創出事業**として、感染対策を徹底した上で、対面式によるブラッシュアップセミナー及び婚活イベントを開催してまいります。

また、結婚に対する経済的な不安を解消するため、結婚に伴う住居費及び引越費用を支援する**おかやでスタート 結婚新生活支援事業**につきましては、対象となる所得要件を世帯所得400万円未満から500万円未満に拡大するとともに、夫婦ともに29歳以下の世帯に対しては補助限度額を60万円に拡大して実施してまいります。

なお、この2事業につきましては、令和5年度から地域創生推進課が所管することとし、結婚のきっかけとなる男女の出会いの場の創出から、結婚・定住までトータル的にサポートしてまいります。

母子保健の充実といたしましては、新たに**不妊及び不育症治療費等助成事業**として、タイミング療法、人工授精、体外受精など、医療保険の適用・適用外を問わず幅広い支援を行うことで不妊治療等の際の経済的負担の軽減を図ってまいります。

また、新たに**新生児聴覚検査費助成事業**として、概ね生後3日以内に実施する新生児聴覚検査に要する費用を助成し、保護者の経済的負担の軽減とあわせて、聴覚障害の早期発見・早期療育につなげてまいります。

さらに、**出産・子育て応援給付金事業**では、妊娠から子育て期までの伴走型相談支援に加え、経済的負担を軽減するための出産・子育て応援給付金を支給するなど、引き続き、妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない包括的な支援を実施してまいります。

子どもの育成支援といたしましては、令和4年度中に策定いたします「岡谷市保育園整備計画中期計画」に基づき、西部地区（川岸地区）の整備を進めることとし、従来の保育機能を大切に受け継ぐ「公立の幼保連携型認定こども園」の設置に向けて事業を推進してまいります。

また、**保育環境改善等事業**として、保育園などにおける感染防止を徹底するため、手指消毒用アルコール、子ども用マスクなど、必要な資材、備品等の整備を継続してまいります。

子育て世帯への経済的支援では、幼児教育・保育の無償化に伴う**副食費の減免**、小中学校における**就学援助費**などを継続実施するほか、**子ども医療費給付事業**につきましては、入院・外来ともに対象年齢を18歳まで拡大してまいります。

さらに、学校給食におきましては、物価高騰への対応として**学校給食費の値上げ相当分**を、令和5年度は**全額公費で負担**してまいります。このことによりまして、学校給食の質と量を維持し、子どもたちの健全な成長を支援するとともに、子育て世帯のさらなる経済的負担の軽減を図ってまいります。

このほか、安心して子どもを育てられる安定した住まいの提供を図るため、子育て世帯等を対象に**市営住宅への優先入居**を行うとともに、令和5年度は新たに、小萩K市営住宅の2戸にユニットバス、網戸を設置し、経済的負担の軽減と若年層の移住・定住を促進してまいります。

地域福祉の推進では、**重層的支援体制整備移行準備事業**として、複合化・複雑化する支援ニーズに対応する、断らない包括的な支援体制を整備するため、連携支援コーディネーターを中心としてアウトリーチ支援に取り組むとともに、関係機関との連携体制を構築してまいります。

このほか、岡谷市社会福祉協議会との連携により実施しております**成年後見支援センター事業**では、市と成年後見支援センターが協働して中核機関としての役割を果たし、成年後見制度の利用促進を図るとともに、超高齢化や身寄りのない方が増えていく時代を見据えて権利擁護事業を進めてまいります。

高齢者福祉の推進といたしましては、高齢者の心身の多様な課題に対して、きめ細やかな支援を実施するため**高齢者の保健事業と介護予防等の一体的事業**として、個々の健康状態に応じた運動習慣や食習慣などの個別指導を行う「シニア運動療法教室」を開催するほか、高齢者のフレイル予防を図るため、地域の通いの場において医療専門職による講座の実施や健康相談などに取り組んでまいります。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、**地域医療介護総合確保基金**を活用し、民間事業者が行う小規模多機能型居宅介護施設の整備を支援

してまいります。

このほか、**一般介護予防事業**として、介護予防普及啓発、地域におけるリハビリテーション活動の支援など、各種の取組を通じて高齢者が持てる能力を発揮しながら、住み慣れた地域で安心して生活することができるまちづくりを進めてまいります。

障がい者（児）福祉の推進といたしましては、「第5次岡谷市障がい者福祉計画」に基づき、地域生活支援の充実、自立支援と社会参加の促進、暮らしやすい環境の整備など、障がい者施策の一層の推進を図り、障がいの有無にかかわらず住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の形成をめざしてまいります。

また、人工呼吸器や経管栄養などの医療的ケアを日常的に必要とする**医療的ケア児の支援体制を強化**するため、諏訪圏6市町村協働によりコーディネーターを配置し、関係機関との連携強化、必要な支援と地域資源とのマッチング等に取り組んでまいります。

社会保障の円滑な運営といたしましては、**国民健康保険事業**について、財政運営の責任主体であります長野県とともに国保の運営を担い、安定的な財政運営に努めてまいります。

生活保護に至る前の段階での自立支援の強化を図る**生活困窮者自立支援事業**では、自立相談支援を核に就労支援、住居確保支援、家計改善支援など、それぞれの状況に応じたきめ細やかな相談、対応を行い、生活困窮者の自立に向けて幅広く支援してまいります。

このほか、心配ごと相談、消費生活相談、女性のための相談、ひとり親家庭相談など、生活に関する多様な相談窓口を一元化した**福祉総合相談事業**を継続し、それぞれの事情に応じて専門の相談員が丁寧な対応を行ってまいります。

保健・医療の推進では、**健康づくりの推進**といたしまして、外出控えによる体力の低下や生活習慣病の重症化など、市民の健康状態の悪化が懸念されることから**健康増進計画 健活プロジェクト**として、各種健康講座の開催やシルキーチャンネルを活用した啓発活動のほか、特定健診後の保健指導に注力し、市民の健康の保持と増進を図ってまいります。

また、新たに**がん治療アピアランスケアサポート事業**として、がん治療による外見の変容を補完する補正具等の購入費用を助成することで、がん患者の心身

の負担軽減を図り、社会参加の促進と自分らしく生きることのできる環境を整えてまいります。

地域医療体制の推進といたしまして、岡谷市病院事業では、天野病院事業管理者、内山病院長のもと、「**安定的な経営基盤の維持**」を第一とし、「**人材育成**」、「**質の高い医療サービスの提供**」に向けた積極的な病院運営を進め、市民の生命と健康を守る市民病院として、また、諏訪圏域唯一の第2種感染症指定医療機関として感染症対応を含む地域医療の拠点的な役割を果たしつつ、質の高い医療サービスを継続的に提供し、市民の信頼や期待に応えることができる病院づくりを推進してまいります。

また、市内医療体制の充実に不可欠な医師の確保につきましては、病院事業管理者とともに、引き続き、信州大学医学部等への訪問を重ね、岡谷市民病院の診療体制の充実に努めるほか、医師養成課程向けの育英資金奨学金の効果的な活用を進めてまいります。

続きまして、基本目標『**未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち**』について説明申し上げます。

岡谷市教育大綱に教育理念として掲げます「**自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり**」の実現に向けて、子どもたちの確かな学びと成長の支えを実現し、豊かな感性と人間性を育みながら、家庭・学校・地域・行政の協働により「岡谷のひとづくり」を推進してまいります。

また、生涯を通じて学び続け、スポーツに親しむ環境づくりに取り組んでまいります。

学校教育の推進では、川岸小学校と岡谷西部中学校において切れ目のない一貫した教育を提供する「**施設一体型義務教育学校**」の設立をめざすとともに、「岡谷市保育園整備計画中期計画」に基づく「**公立の幼保連携型認定こども園**」を併設する「**川岸学園構想**」の推進により、異年齢の子どもたちをつなぐ新たな学び舎の創出を図ってまいります。

なお、「川岸学園構想」の事業推進体制につきましては、教育委員会に**川岸学園設立準備室**を設置し、基本計画等の策定や整備に向けた準備を進めてまいります。

また、**チーム岡谷による学びの創生・連携推進事業**につきましては、新たに校長級の主幹指導主事を配置し、小中学校における学びの改革を通じて子どもたちの学力向上を図るとともに、「**おかや絹結プログラム**」の実践などにより幼保小中の連携強化を図ってまいります。

さらに、**外国語授業支援強化事業**として、現在小中学校に配置しております外国語指導助手（ALT）を2名増員し7名体制とすることで授業支援を強化し、グローバル化が進む国際社会に対応した英語教育の充実を図り、児童・生徒のさらなる英語力向上をめざしてまいります。

このほか、学校内における感染症対策に係る業務や教員の補助的業務を行う**スクール・サポート・スタッフ**につきましては、県費職員とあわせ、市内全校に配置することとし、教員の負担軽減を図るとともに、教員が子どもたちと向き合い指導に専念することができる環境を整えることで、より質の高い授業の実現と学力向上に努めてまいります。

部活動地域移行推進事業では、国の方針に基づき、休日の部活動の運営を学校

から地域のスポーツクラブや団体等へ移行していくため、検討組織を設置して研究・検討を進めるほか、休日の部活動を担う指導員を増員配置することで望ましい部活動の環境整備と教員の働き方改革を進めてまいります。

施設整備では、**学校施設バリアフリー化事業**として、岡谷田中小学校へエレベーター及び身障者対応の多目的トイレを整備することで、障がいの有無に関わらず誰もが安心して学べる環境を整えてまいります。

また、小井川小学校の昇降口屋根等の防水工事を行うほか、計画的に進めております**学校トイレの洋式化**については、岡谷北部中学校のトイレを整備することとし、安全・安心で快適な学習環境の整備を進めてまいります。

子ども総合相談センターでは、長期欠席傾向にある児童・生徒の自立に向けた努力を支援するフレンドリー教室、中間教室を引き続き設置するほか、専任の相談員、専門カウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどにより、保育園、学校、専門機関などと連携しながら、子どもたち一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行ってまいります。

通学路交通安全対策事業では、「第4次通学路交通安全プログラム」に基づき、カラー舗装や区画線、ガードポスト等の設置など、通学路14箇所の安全対策工事を実施し子どもたちの安全を確保してまいります。

生涯学習の推進では、人生100年時代を豊かなものにするため、**学びを活かす岡谷学 コレカラ岡谷事業**として、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供するとともに、その学びを地域に還元し後世に伝承することができるひとづくりに取り組んでまいります。

市立岡谷図書館では、市民がより自由に図書館サービスを受けることができるよう、市町村と県との協働による**電子図書館**の整備を引き続き進めるほか、子どもの自主的な読書活動を推進するため、次期の「岡谷市子ども読書活動推進計画」を策定してまいります。

スポーツ・文化の振興では、**スポーツの振興**といたしまして、市民がスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことで、多様な形でスポーツに関わり、スポー

ツを通して心と体を養い、はつらつとした暮らしを送ることができるよう、スポーツ機会の充実とライフスタイルに応じたスポーツ活動を推進してまいります。

令和10年に長野県で開催されます**第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会**につきましては、卓球競技が岡谷市で開催されることが内定しております。また、トライアスロン競技については諏訪湖周の2市1町での共同開催となります。今後、準備委員会、実行委員会組織の立ち上げに向けて、関係機関との調整を図りながら事業を推進してまいります。

このほか、**スポーツ環境の整備・充実**として、市民一人ひとりが安全で快適なスポーツ活動を行うことができる環境を整えるため、引き続き、**市民水泳プールの大規模改修工事**を進め、本年5月のリニューアルオープンをめざしてまいります。

文化・芸術の振興として、**岡谷蚕糸博物館シルクファクトおかや**では、「紫根・茜の世界」と題し、着物ジャーナリストのプロデュースによる染と織にスポットを当てた企画展の開催、また、東京農工大学科学博物館との連携により、官営2番目の製糸工場であった「勸工寮葵町製糸場」での、当時の繰糸風景をVRにより復元し資料とともに展示するなど、市民のみならず、より多くの皆様にシルクの良さとまちの魅力を伝え、シルク文化・シルク産業のさらなる発展へつなげてまいります。

岡谷美術考古館では、**美術考古館開館10周年記念事業**として、明治40年に天王垣外遺跡から出土し、現在は東京国立博物館に収蔵されている勾玉などの考古資料を初めて市内で展示・公開するほか、質の高い芸術、文化に触れる機会を創出するとともに、来館者の増によるまちなかのにぎわい創出につなげてまいります。

また、県宝にも指定されている岡谷市の貴重な文化財のひとつであります**旧渡辺家住宅**につきましては、経年による傷みが見られることから、茅葺屋根の葺き替え工事、中門の補修工事などを行い、適正な保全に努めてまいります。

このほか、**市史編さん準備事業**として、上・中・下巻の発刊後、約40年が経過している中、新たな市史を編さんするため、教育委員会に**岡谷市史編さん準備室**を設置し、編さん方法の検討、基本方針の作成など、岡谷市の歴史を後世に引き継いでいくための準備を進めてまいります。

続きまして、基本目標『人が集い、にぎわいと活力あふれるまち』について説明申し上げます。

産業の振興では、**工業の振興**といたしまして、最終年を迎えます「岡谷市工業活性化計画」に掲げる将来工業都市像「次世代を切り拓く、高い技術のものづくりのまち」の実現をめざして、各種施策を展開するとともに、計画期間中の取組の効果を検証し次期計画を策定してまいります。

企業立地の推進では、工場の新設・移転時に土地の取得額などを助成する**商工業振興条例補助金**のほか、工場等の家賃を助成する**企業立地支援補助金**などにより、市外企業の誘致をはじめ、市内企業の事業拡大と流出防止、空き工場の活用促進に取り組み、本市の強みであります産業集積の維持・拡大に努めてまいります。

また、新規創業者支援といたしまして、「創業支援事業計画」に基づく、起業、技術相談、販路開拓の支援や**創業のまち岡谷実現事業**による資金面での支援のほか、諏訪圏工業メッセの出展ブースを確保するなど、創業まもない中小企業者の経営基盤の確立や受注開拓を支援し、地域経済の活性化と雇用拡大を図ってまいります。

なお、令和5年度の諏訪圏工業メッセは岡谷市での開催となります。諏訪地域のものづくり産業の活性化のため、実り多きメッセとなるよう開催市として努めてまいります。

このほか、**地域経済牽引事業**につきましては、現行の基本計画期間を延長し、引き続き、成長分野への参入や設備投資、販路開拓など一体的な支援を行い、地域経済全体の発展につなげてまいります。

工業活性化対策の推進では、市内企業の新技術・新製品等の開発を支援する、**新技術・新製品等ものづくりチャレンジ企業応援事業**について、**グリーン成長事業枠**として、国のグリーン成長戦略における14の重点分野に取り組む企業に対して補助限度額を引き上げ、GX（グリーントランスフォーメーション）への新たな挑戦を後押ししてまいります。

また、新たに**カーボンマネジメント支援事業補助金**として、市内企業が自社から排出する温室効果ガスの量を把握するとともに、その削減のための取組を支援することで、温室効果ガスの排出抑制とエネルギーコストの削減の両立によ

る経営基盤強化を図ってまいります。

このほか、**展示会共同出展事業**として、現在、半導体メーカーが数多く進出し、注目が集まっている九州で行われる大規模工業展示会へ初めて共同出展するなど、市内企業のPRとあわせて新たな販路開拓と受注確保に努めてまいります。

経営環境の充実では、**DX推進デジタル化ツール導入等支援補助金**として、市内製造業のデジタル技術を活用した新たな取組を支援するほか、さらにデジタル人材の育成・確保に要する経費を支援することで、市内企業の生産性向上、企業競争力の強化などにつなげてまいります。

連携の強化では、**小型ロケットをキーとした信州大学との連携強化事業**として、これまで8年間継続してまいりました**SUWA小型ロケットプロジェクト**の取組を継承し、引き続き信州大学との連携により、技術相談やリカレント教育のほか、ロケットワークショップなどを通じて若年層のモノづくり意識の醸成及び人材の呼び込みに取り組んでまいります。

商業・サービス業の振興といたしましては、「岡谷市商業活性化計画」に商業の将来像として掲げる「人が集い、暮らしに彩りと潤いがあふれ、楽しいがあるまち」の実現をめざして諸施策を積極的に展開するとともに、商業者及び消費者の意識・動向を的確に把握しながら次期計画を策定してまいります。

商業環境の立地競争力の強化を図るため、**商業等振興補助金**により、新規出店の際の改修や既存店舗の改修に要する経費などを助成することにより、まちなかのにぎわいの創出を図り、回遊性のある商業地の形成をめざしてまいります。

また、岡谷TMOとの連携を深める中で、商業会等が行う販売促進活動を積極的に支援するほか、商業会等の連携による取組を促進することで中心市街地のにぎわいをつくり出し、消費需要の喚起に努めてまいります。

このほか、岡谷版電子マネー**オカヤペイ**につきましては、岡谷商工会議所との連携を深めながら、行政ポイントの付与などにより利用拡大を支援してまいります。

農業の振興といたしましては、新たに**省エネ農業推進事業補助金**として、省エネ対策資材等の購入に要する経費を助成するほか、プラスチックごみの排出抑

制に貢献することができる生分解性マルチの購入費に対して助成することで、環境負荷の軽減とあわせて農業経営の安定化を図ってまいります。

また、今年度大変好評でありました**岡谷・シルクスweetオーナー事業**を継続実施することとし、栽培・収穫体験などの生産過程を通じて、関係人口の創出・拡大を図るとともに、シルクスweetのブランド化をめざしてまいります。

森林の整備といたしましては、**森林経営管理事業**として、地域林政アドバイザーを中心に、森林所有者の意向把握に努めるとともに、森林経営計画の策定を進め森林の適切な管理につなげてまいります。

また、**農林業の基盤整備**として、**林道常現寺線の舗装工事**のほか、**横川本汐支流水路の拡張工事**、**八倉沢の農業用ポンプの更新工事**を進めてまいります。

ブランドの振興といたしましては、製糸業で世界に名を馳せ、日本の近代化を支えた「シルク岡谷」、「糸都 岡谷」の歴史と文化を継承するとともに、岡谷ブランドの核となるシルクを活かしたまちのにぎわいを創出するため**岡谷シルク推進事業**として各種の取組を展開いたします。

まず、**ブランド発信事業**として、岡谷シルクブランド認証製品・サービスの開発を促進するため、新製品等の開発費の一部を助成することで、認証製品の拡大とブランド力のさらなる向上を図り、さらには、首都圏等で開催される展示会において広くPRを行い、岡谷シルクブランドの定着を図ってまいります。

次に、**養蚕振興事業**として、養蚕体験を通じて養蚕業への理解と関心を深めるとともに、岡谷シルクの原料となる岡谷産繭の品質向上、安定供給に向け、市内製糸業者が岡谷産繭を購入する際に、繭の買取価格に上乗せを行う補助事業を実施してまいります。

次に、**岡谷シルク体験事業**では、アーティスト・イン・レジデンスとして、学生等が行うシルク作品の制作活動に対する支援、著名アーティストによるワークショップなどを実施するほか、製糸業の歴史を今に伝える市内の製糸関連資産等を巡るまちあるき事業など、岡谷でしか体験することができないプログラムを提供することで、市外から多くの人を呼び込み、交流人口、関係人口の創出・拡大を図ってまいります。

観光の振興では、本市を代表する**市民祭岡谷太鼓まつり**については、感染症の影響により3年続けての中止となりましたが、今年こそは開催するという思い

を持ちつつ、鳴り響く勇壮な太鼓の音の中で、祭りの熱気と楽しみを多くの方と共有することができるよう準備を進めてまいります。

働く環境の充実では、新たに**就業体験チャレンジ・インターンシップ強化事業**として、インターンシップを積極的に受け入れ有効な採用活動につなげるため、受入可能企業と大学とのマッチングのほか、コンサルタントによる個別相談を行うことにより、インターンシップの受入体制と採用力の強化を図ってまいります。

また、採用における企業のブランディング強化に向けた個別相談の実施や、採用活動のオンライン化への取組に要する経費を助成する**U I J ターンおみや総合サポート事業**につきましては、新たに求人用ホームページの新設・改修に要する経費等を補助対象に加え、市内企業の採用力のさらなる強化と合わせ、U I J ターン就職を促進してまいります。

このほか、**働きやすい職場づくり応援補助金**では、手すりやスロープの設置、トイレ・更衣室の整備など、働きやすい職場環境の整備に取り組む市内中小企業を支援するほか、新たに、女性活躍や子育て支援、仕事と家庭の両立等に関する国・県の認証取得に要する経費の一部を助成してまいります。

さらに、重量物を持つことが困難な女性や高齢者等が、その力を存分に発揮しながら職場で活躍することができるよう、事業者のパワーアシストスーツ導入に要する経費を補助対象に加え支援を強化することで、多様な人材の雇用促進と定着化を図ってまいります。

移住・定住の促進では、**若者移住者住まいの支援事業**として、新たに、市内へ転入し、かつ住宅を取得した方に対して最大100万円を補助するほか、大学等へ通う学生並びに29歳以下の勤労者に対する民間賃貸住宅の家賃補助を引き続き実施することで、移住・定住をさらに促進してまいります。

また、新たに移住・定住の促進を担う**地域おこし協力隊**を採用し、シティプロモーションを強化することで、岡谷市の知名度向上を図ってまいります。

さらに、国、県と連携して取り組んでおります、**就業・創業移住支援事業**につきましては、18歳未満世帯員の帯同加算をこれまでの1人あたり30万円から100万円へ大幅に拡大し、若者の移住・定住の促進とあわせて人手不足の解消を図ってまいります。

続きまして、基本目標『安全・安心で、自然環境と共生するまち』について説明申し上げます。

安全対策の推進では、**危機・防災・減災対策の推進と消防力の強化**といたしまして、河川氾濫や浸水被害を未然に防ぐため、市が管理する普通河川の河床整備や護岸改修などを行うほか、土砂や樹木によって流れが阻害されている河川の浚渫を計画的に実施する**河川緊急浚渫推進事業**に引き続き財源を重点配分して取り組んでまいります。

また、計画的に進めております**ため池整備事業**では、長野県により「防災重点農業用ため池」に指定されている市内7箇所のため池のうち、川岸三沢にあります蟹沢下ため池、明王ため池、西除ケ入ため池の廃止工事等を進めることで、地域住民の安全・安心を確保してまいります。

さらに、**地域の防災力・減災力強化事業**として、令和4年3月に見直しを行った避難情報の発令判断基準及び避難行動等の周知徹底に努めるほか、防災訓練や地区防災マップの作成支援など、各種の取組を通じて各区自主防災組織を中心とした住民及び地域の防災力・減災力の強化を図ってまいります。

このほか、緊急時の情報発信機能を強化するとともに、住民への情報伝達をより確実なものにするため、**防災行政無線のデジタル化**及び**防災気象情報システム**の更新に着手してまいります。

消防団員の処遇改善につきましては、国が示します「非常勤消防団員の報酬等の基準」に基づき、部長以下の年額報酬を引き上げることとし、引き続き、消防団員の負担軽減、安全確保とあわせ、消防団への加入促進に努めてまいります。

環境保全の推進では、「第4次岡谷市環境基本計画」に掲げる望ましい環境像「あふれる緑と清らかな水につつまれたまち」の実現をめざすとともに、ゼロカーボンシティ宣言市として2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた各種の施策を展開してまいります。

自然環境の保全といたしましては、まず公共施設等における取組として、市役所庁舎及びテクノプラザおかや大研修室の**照明LED化**に着手するとともに、公用車両として**EV車両**を2台導入するほか、**EV車両用充電施設**を市役所敷地内に整備し、温室効果ガスの排出抑制と省エネによるコスト削減に努めてまいります。

また、民間等が行う取組への支援として、各区が行う防犯灯のLED化及び公会所等の照明設備のLED化に対して支援するほか、**住宅用再エネ設備等導入促進事業**として、蓄電システム導入補助金に加え、新たに個人住宅に設置する電気自動車充放電設備の導入経費の一部を助成することで、再生可能エネルギーの利用促進と二酸化炭素排出量の削減を図ってまいります。

居住環境の充実では、**空き家対策事業**として、空き家の除却費用に対する補助の上限額を引き上げるとともに、新たに家財等の処分に要する経費に対して助成することで、増加している空き家の適正管理、利活用を促進してまいります。

また、**空き家バンク移住・田舎ぐらし応援事業**として、空き家を購入し市外から転入した場合に、空き家の改修費に対する助成とあわせて移住奨励金を交付することで、新しい人の流れを呼び込み、移住・定住につなげるとともに、住環境の向上による安全・安心の確保と景観の保全を図ってまいります。

このほか、市営住宅においては**老朽団地住替事業**として、廃止の方針としている老朽化が著しい市営住宅からの住み替えを促進し、入居者の安全確保と住環境の向上を図るほか、**中村C2市営住宅の外壁等防水改修**を行い、市営住宅の維持保全と長寿命化を図ってまいります。

続きまして、基本目標『快適な生活を支え、住み続けたいまち』について説明申し上げます。

計画的土地利用の推進では、都市公園施設長寿命化推進事業として、岡谷湖畔公園のジョギングロードの整備及びバスケットボールコートを設置、蚕糸公園の整備完了にあわせたイルミネーションの設置、鳥居平やまびこ公園のサマーボブスレーの修繕など、誰もが楽しく快適に安全で安心して利用できる公園整備を推進してまいります。

また、長野県及び諏訪湖周3市町の連携による諏訪湖周サイクリングロード整備事業として、岡谷市管理区間のうち塚間川から釜口水門までの整備工事等を実施し、令和5年度中の事業完了をめざして事業を推進してまいります。

都市基盤の整備では、幹線道路と交通網の整備といたしまして、県事業であります地域幹線道路整備事業により、主要地方道下諏訪辰野線（岡谷川岸線）の川岸小学校前から観蛸橋までの間の整備工事に向けた用地買収、物件調査等を進めるとともに、主要地方道岡谷茅野線（丸山橋線）の無電柱化事業に着手してまいります。

また、諏訪湖サービスエリアへの仮称・諏訪湖スマートインターチェンジ整備事業として、地域産業の発展、市民生活の利便性の向上や地域のさらなる活性化等を図るため、地元対策委員会並びに国、長野県、諏訪市、NEXCO中日本等と連携を図りながら引き続き事業を推進することとし、令和5年度についてはアプローチ道路の築造工事を進めてまいります。

このほか、川岸駅開業100周年に伴いJR東日本が行います駅舎の建て替えにあわせ、川岸駅周辺環境整備事業として、駅前広場の舗装整備、駅前公衆トイレの改修などを行い、川岸駅利用者のほか地域住民に親しまれ愛される環境を整えてまいります。

生活道路の整備といたしましては、交通量の多い主要幹線道路や身近な生活道路を中心に計20路線、総延長約4.7kmにおよぶ舗装の維持補修及び劣化が軽微な段階で修繕を講じる予防保全型の維持補修に努めてまいります。

また、生活道路安全対策事業として、ゾーン30の指定をしております西堀区内の103号線（西堀通り線）において実施した整備工事などの効果検証、解析の結果を踏まえ、より効果的な安全対策を講じ、交通事故の発生抑制と地域の安

全確保につなげてまいります。

橋梁維持補修事業では、これまでに実施してまいりました道路法に基づく定期点検の結果を踏まえ、JR中央本線に架かります三沢跨線橋の改修工事及び中央町一・二丁目歩道橋の補修設計を実施するほか、41箇所
の橋梁点検を実施することで、安全性の確保と将来的な維持管理コストの削減を図ってまいります。

上下水道の維持・整備といたしまして、**水道事業**では「岡谷市水道事業経営戦略」及び「岡谷市水道事業基本計画」に基づき、将来を見据えた経営基盤の強化を図りつつ、老朽化が進む**水道施設の再構築事業**として片間町ポンプ場の築造工事及び小東橋への水管橋設置工事を進めるほか、**水道施設の更新・耐震化**を計画的に進め、安全で安心なおいしい水を将来にわたり、安定的に供給してまいります。

水道料金につきましては、給水量の減少による減収が見込まれる状況ではありますが、岡谷市水道事業経営戦略等に基づき慎重に検証を行った結果、また、現在の原油価格・物価高騰が市民生活や企業活動に与えている影響に配慮する必要があることから、令和5年度から7年度までの3年間は突発的な事象等が発生しない限り、現行料金を据え置くことといたします。

下水道事業では、「岡谷市下水道事業経営戦略」をはじめとする各種計画を基本として、予防的修繕を行う**下水道ストックマネジメント（長寿命化）事業**のほか**下水道総合地震対策事業**により、災害に強い施設整備を推進してまいります。

また、**下水道雨水渠整備事業**として実施しております、諏訪信用金庫本店から県道檜川岡谷線までの間の山下幹線における雨水渠整備につきましては、令和5年度の事業完了をめざしてまいります。

続きまして、基本目標『みんなでつくる、確かな未来を拓くまち』について説明申し上げます。

地域コミュニティの振興では、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和7年度を初年度とする「男女共同参画おこやプランⅦ」の策定に着手することとし、令和5年度は市民の意識調査を行い、令和6年度の計画策定につなげてまいります。

また、国の登録有形文化財であり、岡谷市並びに市民の貴重な財産であります旧岡谷市役所庁舎を適正に保全し後世に着実に継承するため、**旧岡谷市役所庁舎保全事業**として、令和6年度に予定をしている耐震補強工事の実施設計業務を行ってまいります。

市政運営の推進では、本市のまちづくりの指針を明らかにし、計画的な行政運営を推進するため、「第5次岡谷市総合計画」の基本構想の見直し及び令和6年度を初年度とする「後期基本計画」を策定してまいります。

また、**公有財産の適量・適正化**といたしましては、**公共施設等総合管理計画推進事業**として、「岡谷市公共施設個別施設計画」に基づき、計画的な維持管理、修繕、更新等を進め、少子高齢化、人口減少時代に見合った公共施設の最適化と長寿命化を推進してまいります。

ICT（情報通信技術）利活用の推進といたしましては、**自治体DX推進事業**として、マイナンバーカードを利用した行政手続きのオンライン化、自治体情報システムの標準化・共通化を進め、業務の改善・効率化を図るとともに、行政サービスに係る市民の利便性のさらなる向上につなげてまいります。

また、**市議会オンライン会議等環境整備事業**として、全員協議会室のインターネット環境を整備し、有事の際のオンライン委員会等の開催に備えてまいります。

以上、令和5年度予算編成の概要を説明申し上げます。

感染症の拡大に伴う行動制限やマスクの着用など、感染拡大前の日常が一変してから3年が経過いたしました。

これまでの間、市といたしましては、岡谷市医師会と岡谷市民病院の連携によるワクチン接種や感染症医療の提供を進めたほか、全庁一丸となって各種の感染防止策、社会経済活動を維持するための支援策などを講ずるとともに、市民、事業者の皆様のご理解とご協力、医療従事者などのエッセンシャルワーカーの皆様のご懸命なご努力のもと、感染症の影響を最小限に抑制してまいりました。

そして、国では新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけをこの春より、「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を決定いたしました。

ウィズコロナ、アフターコロナの時代にあって、令和5年度にめざすべきことは、感染拡大以前に戻すことではなく、時代の変化や現状と向き合い、将来を見据えた取組を力強く進めることであると考えております。

引き続き、市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、心に寄り添い、ともに協力しながら、後期基本計画の計画期間であります次の5年間に向けた助走を加速し、躍動してまいります。

岡谷市のさらなる発展と市民福祉の向上に向けてより一層努力を積み重ね、岡谷に住み、働き、学び、訪れるすべての人々に活躍の場と生きがいがあり、生活に彩りと潤い、そして楽しみがあって、幸せを実感でき、このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える、満足度の高い岡谷市を市民の皆様とともにつくり上げるとともに、第5次岡谷市総合計画に掲げる将来都市像「**人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現に向けて、申し上げますまいりました施策、事業に全力を傾注し取り組んでまいりたいと決意しております。

議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます、私の所信の一端といたします。